

第32,651号 【創刊1903年】

埼玉・和光市で行われたオペラ「かぐや姫」



オペラ「かぐや姫」LA公演

22日 戦後70年、平和友好として

日本最古の物語とされる「竹取物語」に基づくオペラ「かぐや姫」のロサンゼルス公演が22日（土）午後7時、アラタニ劇場で「二世週祭」の一環イベントとして開催される。作曲、台本、指揮、演出の4役を務めるのは、ニューヨーク祝祭管弦楽団音楽監督、チェコ・ヴィルトゥオージ室内管弦楽団首席客演指揮者を務める指揮者の平井秀明氏で、自作オペラ3部作の「かぐや姫」「小町百年の恋」「白狐」（岡倉天心原作）は国内外で多数上演されるなど、オペラ作曲家としても高い評価を得ている。

オペラ「かぐや姫」は、日本各地に加えキャンベラ、プーラハ、ザルツブルクほか海外上演回数20回を超えるが、元をたどれば1992年に平井氏がニューヨーク留学中に書き下ろした「別れの Aria」初演が大きな反響を呼び、2003年に全2幕のオペラが完成して東京で初演、今回の公演は23年の歳月を経て満を持しての米国初演。あたかも姫の里帰りのようである。

戦後70年の平和友好公演として今回は、日米のオペラ歌手、合唱、母子合唱、バレエ、オーケストラは日米両国の合同キャストが出演し、姫の求婚者5人は米国人歌手らが日本語歌唱に挑戦するなど、国際文化交流の点でも意義深く注目したい。平井氏の作風は、「平城山」「スキー」「とんぼのめがね」などの国民的作品で知られる作曲家の祖父、平井康三郎譲りの美しいメロディーを受け継いでおり、誰もが知るストーリーとともに、子どもから高齢者まで幅広い聴衆に親しまれる作品である。

チケットは、電話310・625・4222。メール LADaiku@aol.com
www.eventbrite.com